

科目責任者 馬場 正樹 (天然薬物学教室)

■ 教育目的

伝統医学・伝承薬物が世界的視野から見直されてきており、漢方医学・アユルヴェーダー・欧州系植物療法等の伝統医学の概要、並びにそこで使われている伝承薬物を広く理解する必要がある。特に、『未病（みびょう）を治す』の観点から、現代における漢方の治療・予防医学に取り組めるようにする。

漢方医学の治療方針、臨床例を通して、現代の医療に貢献している東洋医学の実態を学ぶ。

■ 学習到達目標

1. 世界の伝承薬物が見直され「代替医療」として近年急速に普及してきた背景と実態を理解する。
2. 生活習慣病の予防における食生活の重要性を通じて、食医同源の概念を理解する。
3. 世界の伝統医学・伝承薬物を体系的に学び、特に、漢方医学がどのような背景で中国に起こり、現在の医療に貢献しているかを理解する。
4. 東洋医学（漢方）の概念や理論体系・治療方針を具体的臨床例を基に理解する。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：教科書・参考書等の該当箇所に目を通しておく

復習：ノートや講義プリントを教科書・参考書等で確認する。

■ 授業内容

世界の伝統医療の現状やその意義について、今後の展開も含めて解説する。特に、我が国における漢方についてはその特徴的な理論体系を臨床現場における実例を例示しつつ概説する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	各国の伝統医学・伝承薬物	世界各国における伝統医学、生薬・伝承薬物について	C7 (2) -1-2
2	漢方薬・生薬研修会、代替医療、未病医学	漢方薬・生薬認定薬剤師制度について、補完医療としての代替医療について、未病医学について	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-2
3	生薬の生産と品質	生薬の産地と品質・流通、およびその鑑別や品質管理について	C7 (1) -1-3 C7 (1) -2-3 C7 (1) -6-5 C7 (2) -1-3
4	本草学と漢方	漢方医学における本草学の歴史や概念について、生薬の気味と五行理論	C7 (1) -1-1 C7 (3) -1-3
5	東洋医学の歴史	漢方医学の3大古典、わが国における漢方医学の受容と発展	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-2
6	漢方薬の特徴について	漢方薬と西洋薬、民間薬との相違について	C7 (3) -1-2 C7 (3) -1-3 C7 (3) -1-7
7	漢方の基礎理論	陰陽・虚実・五行説・五臓六腑・表裏内外・寒熱	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-3 C7 (3) -1-4
8	//	六病位・病因論・七情・心身一如・脾胃・未病・気血水	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-3 C7 (3) -1-4
9	漢方診断学	四診（望診・舌診・脈診）	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-3 C7 (3) -1-4
10	//	四診（腹診）・方剤学	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-3 C7 (3) -1-4 C7 (3) -1-5
11	漢方処方解説	気血水治療の処方・瀉剤（発表剤 1）	C7 (3) -1-4 C7 (3) -1-5 C7 (3) -1-6 C7 (3) -2-1

No.	項目	授業内容	SBO コード
12	//	瀉剤（發表剤 2・清熱剤・瀉下剤）	C7 (3) -1-4 C7 (3) -1-5 C7 (3) -1-6 C7 (3) -2-1
13	//	補剤（補気剤・補陽剤・補陰剤）	C7 (3) -1-4 C7 (3) -1-5 C7 (3) -1-6 C7 (3) -2-1
14	//	和解剤・その他の処方	C7 (3) -1-4 C7 (3) -1-5 C7 (3) -1-6 C7 (3) -2-1
15	漢方処方の運用	服用注意事項・副作用・瞑眩・日本の漢方医学史	C7 (3) -1-1 C7 (3) -1-3 C7 (3) -2-1 C7 (3) -2-2

■ 授業分担者

No.1～2：岡田 嘉仁、No.3～4：馬場 正樹、No.5～6：緒方 千秋（非常勤講師）、No.7～15：伊藤 剛（非常勤講師）

■ 成績評価方法

出席を前提とし、定期試験 90 % その他受講態度等 10 % で総合的に判断する。

■ 教科書

『学生のための漢方医学テキスト』 日本東洋医学会学術教育委員会 編（南江堂）

■ 参考書

『薬学生のための漢方医薬学改訂第2版』 山田陽城ら 編（南江堂）

『薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100 -含漢方処方-』 日本薬学会 編（東京化学同人）